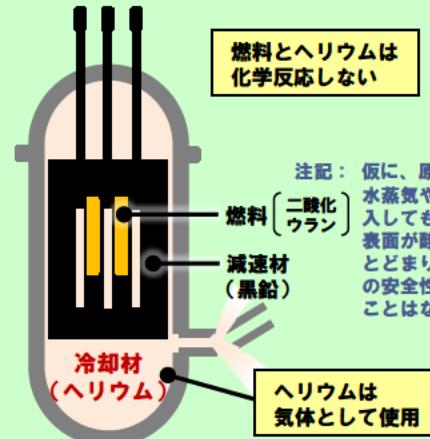


優れた安全性

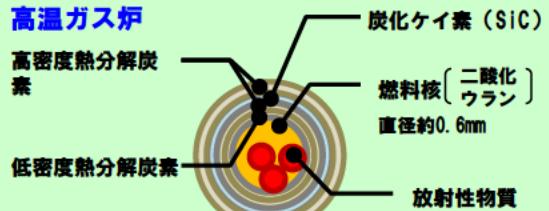
冷却材に不活性な ヘリウムガスを使用

高温ガス炉



燃料の被覆に耐熱性に優れた セラミックスを使用

高温ガス炉



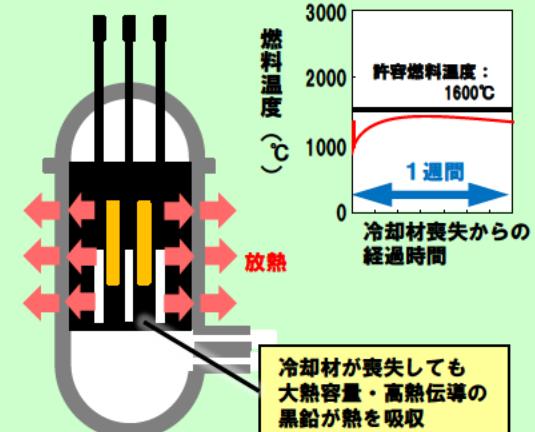
放射性物質の放出が顕著になる温度は約2200°C
(1600°Cまで再利用可能)

冷却材喪失事故時においても、原子炉は自然に
冷却され、燃料温度は1600°Cを超えない。

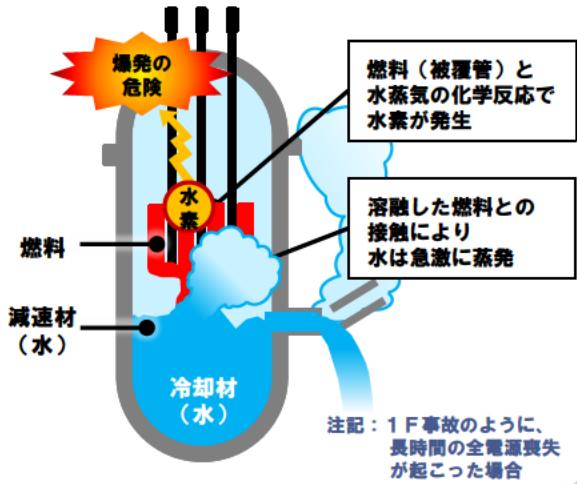


黒鉛(減速材)により 事故時の温度変化が緩慢

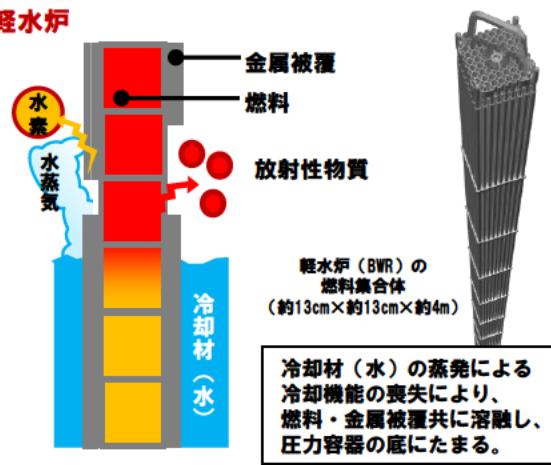
高温ガス炉



軽水炉

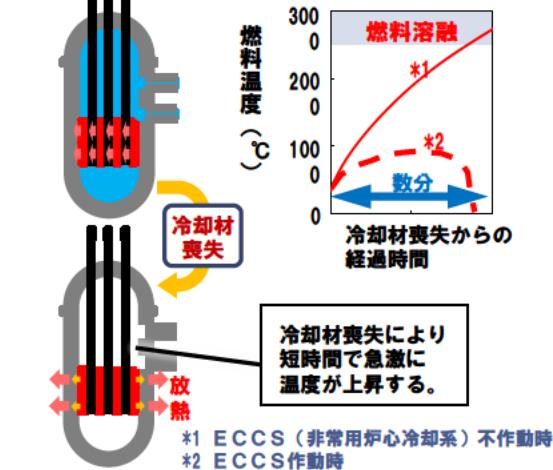


軽水炉



注記: 1F事故のように、長時間の全電源喪失が起こった場合

軽水炉



水素爆発・水蒸気爆発が発生しない

燃料溶融しない

温度変化が緩慢で運転員の早急な対応が不要

*1 ECCS (非常用炉心冷却系) 不作動時
*2 ECCS作動時